

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 差別や偏見をなくすために B 相互理解, 寛容

2 本時のねらい

- 筆者の生き方について話し合うことで, 周りの人へ寛容な気持ちを持ち, 差別や偏見をなくすことについての考えを深める。

3 準備・教材

- 教材名「あなたは顔で差別をしますか」
- 教師・・・振り返り用紙

4 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
意識を向ける	1 教材への関心をもつ。 ○外見だけで人を判断してしまったことはありますか。 ・外見で人をからかったことがある。 ・自分の苦手なタイプの人と思ったが話してみて仲よくなれた。	5	○内容を無理に聞き出すことはせず, 話せる生徒のみ発表させる。 ○本時は外見で差別をされた人の話であることを伝え, 範読をする。
	2 教師の範読を聞き, 教材について話し合う。		○小見出しの四つのまとまりごとに範読し, 内容を簡単に確かめていく。
話し合う	筆者は自分のどんなところを変えたのだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・すれ違う人をにらみつける。 →にこっと笑う。 ・心の壁をつくる。 →壁をとっばらう。 ・他人と比較する。 →自分の価値や個性を見つめる。 ・未来が変わった。 ・人生が楽しくなった。 ・自分に自信をもつようになった。 ・周囲が影響を受けて, 笑顔で接してくれるようになった。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ○四つ目の小見出し「自分と未来は変えられる」の文章中から捉えさせる。 ○変えたところだけでなく, それによって筆者の人生にどんな変化があったのか補助発問によって確かめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">補 変えたことによって, 筆者にどのような変化があったのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○筆者の人生が好転したことを押さえて, 中心発問へつなげる。
話し合う	筆者の生き方から, どんなことを学びましたか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・過去と他人は変えられないが, 未来と自分は変えられる。 ・個性を人と比較する必要はない。 ・常に自分が正しいと決めつけない。 ・一人一人が世界に一つしかないかけがえのない存在である。 ・個性も含めて自分に自信をもって生きていくことが人生の充実につながる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○筆者から学んだことを考えさせることで, 自分自身を見つめ直すきっかけとしたい。 ○どの場面からでもよいことを伝えたり, 些細な考えの違いも認めたりして, 多様な意見を出させたい。 ○全体で話し合う前に, 席が近くの生徒同士で意見交換をすることで話しやすい雰囲気をつくる。

	・相手を外見だけでなく、中身から理解することが大切である。	30	評筆者の生き方から、他者を理解する気持ちや寛容な心をもつことの大切さに気付いている。（話し合い）
深める	3 話し合いを踏まえて、自己の生活について考える。		○話し合いを踏まえ、自分たちのこととして考え、価値にせまる。
	差別や偏見のない社会をつくっていくためには、どんなことが大切なのだろうか。		
	・相手のことを否定しない。 ・外見だけで人を判断しない。 ・中身もきちんと見ようとする。 ・外見も中身も、それぞれの個性として理解する。	45	○学校やクラスも小さな「社会」であることを押さえ、自分のこととして考えさせる。 ○考えが浮かばない生徒には、筆者に対して自分自身がどのように接することができるのか考えさせる。
見つめる	4 自己を見つめる。 ○今日の授業で考えたことを振り返り用紙に記入する。	50	評差別や偏見をなくするために必要なことについて、自分なりの考えを記入している。（振り返り用紙）

5 本時の評価

- 差別や偏見のない社会をつくるために大切なことについて、自分なりの考えや意見をもつことができている。（話し合い、振り返り用紙）

6 板書計画

